



西中学校だより

一本の樹

校訓 しなやかに すこやかに

令和7年1月8日
第9号
上尾市立西中学校長
宮田 純生

新年を迎えて

校長 宮田 純生

新年明けましておめでとうございます。

今年度は大阪で万博が開催されますが、今から50年前にも大阪万博（EXPO70）が開催されました。日本のパビリオン「三菱未来館」という施設のパンフレットには2020年に日本人がどんな暮らしをしているのかが、「50年後のあなた」としてまとめられていました。

「家庭」の項目では、家事はすべて機械がやるために、主婦は電子チェアにすわって、家事プログラムに合わせたボタンを押すだけ、料理は電子自動調理器をセットするだけとなると書かれています。また、世界中のテレビ中継がみられるほか、プールや自家用ヘリが一般家庭にも普及しているそうです。

学校は、個人の能力をのぼす「科目別進学制」になり、勉強の場は家庭に移り、テレビ放送で教育を受けるようになり、学校そのものは、遊びや体育を通じて「人間性や団体生活を養う」場になり、教育の国際交流が広がり、留学も簡単にできるようになると書かれました。

会社のオフィスでは、「会社内の業務は、完全にオートメーション化され、ボタン一つですべてが操作できるようになる」「会社は、24時間業務を続けるが、人間の働く時間は1日4時間に短縮される」と、書かれています。身体を使った労働に関しては、ロボットの普及により姿を消し、朝の通勤ラッシュも「伸縮自在の高速通勤列車」のおかげで解消されると書かれていました。

医療では、ガンは克服され治療ができるようになり、交通事故以外では手術も必要なくなり、人工臓器も活躍し、人の健康状態のデータは常に病院に管理されることで、病気がある際には呼び出される仕組みに変わると予測されていました。

50年が過ぎ、実現できているものとまだまだ実現ができていないことがあることがわかれると思います。当時からすれば、50年後は遙か未来のことですが、パンフレットの冒頭には、こう書かれています。「私達を脅かす自然の脅威。それを克服して、いかに自然と調和した文明を築くかこれが、三菱未来館のいづく大きな夢です。ここに描かれる驚異の世界は、単なる夢物語ではなく、近い将来、必ず行われるであろう。」

現在の生徒は今後の50年を考えて生きていく必要があります。さて、子供たちはどんな未来を切り開いていくのでしょうか。

